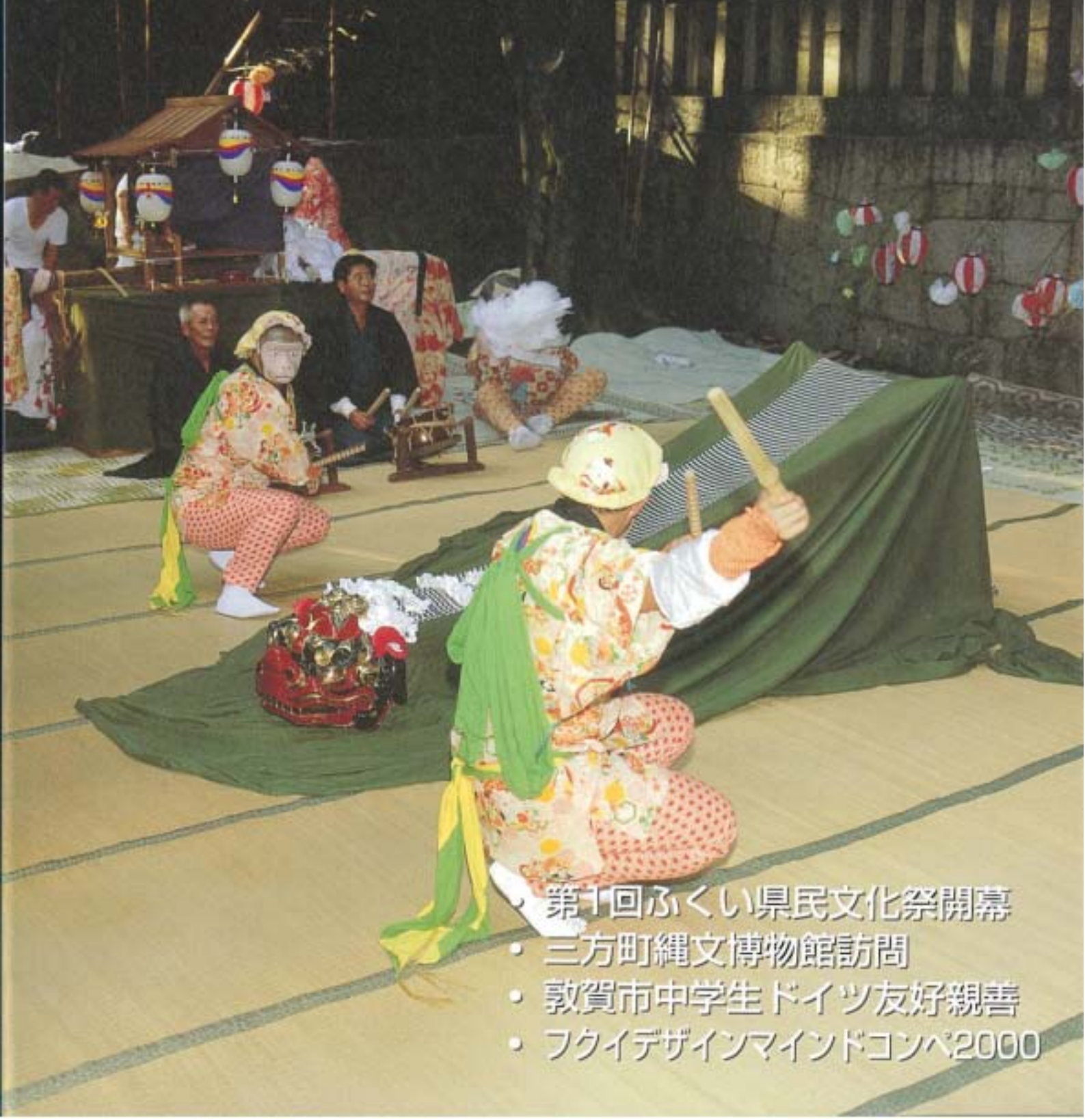


げんでん 福井 ふれあい

GENDEN FUREAI FUKUI

2000 第8号 AUTUMN



- ・ 第1回ふくい県民文化祭開幕
- ・ 三方町縄文博物館訪問
- ・ 敦賀市中学生ドイツ友好親善
- ・ フクイデザインマインドコンペ2000

CONTENTS

- ・第1回ふくい県民文化祭開幕…… P2・3
- ・三方町縄文博物館訪問…… P4・5
- ・敦賀市中学生ドイツへ友好親善… P6・7
- ・フクイデザインマインドコンペティション
2000…… P8・9
- ・伝統芸能シリーズ 国山の神事…… P10
- ・敦賀市立博物館
復古大和絵巻上展3…… P11
- ・狂言を楽しむ会…… P12
- ・第4回福祉寄席を開催…… P13
- ・情報ファイル…… P14・15

表紙の説明

福井県無形民俗文化財
赤崎獅子舞
(敦賀市 赤崎)



敦賀市赤崎の八幡神社では、毎年9月14・15日の2回、赤崎獅子舞奉賛会の会員の手で獅子舞が奉納されます。獅子舞に関する古い記録は残されておらず起源は定かではありませんが、かつて使われていた神楽に文久元年(1861)と記されておりこの芸能は江戸時代中ごろから行われていたと推定されます。

15日の本祭りには、まず氏子が全戸を巡回した後、神社へ上がり、拝殿前で、五穀豊穡祈願の舞が奉納されます。

舞は踊り子と尾持ちの二人で演じられ、悪魔退散の鈴の舞、舞の舞に始まり、盃拾い、寝の舞へと続き、高山の舞が千秋楽で納められます。途中寝の舞の時、紅袴洋姿などの道化役が囃物入りで軽妙洒落に騒ぐ一興があり、境内いっぱいに詰めかけた客らを楽しませます。

第1回

ふくい県民文化祭華やかに開幕

ふくらまそう ゆめ・愛・未来・人・文化

「ふくらまそう ゆめ・愛・未来・人・文化」をキャッチコピーに第1回ふくい県民文化祭(同祭実行委員会主催)が9月3日・ハーモニーホールふくい(県立音楽堂)のオープニングフェスティバルで華やかに開幕。12月3日まで約3ヶ月間、県内13の会場で分野別祭典が繰り広げられます。

新しい装いで発足した県民文化祭のポイントを紹介するとともに、参加団体の新しい取り組みの声などを特集しました。

平成17年 国民文化祭に向け 新しい文化の創造へ

県民文化祭は、平成17年秋本県で開催が内定している国民文化祭に向けて、気運を盛り上げるとともに県内文化の振興を図る



日本ハーブ協会北陸支部によるハーブアンサンブルで開幕

茶道・演劇など15分野別のフェスティバルに拡充し、地域特性を活かした新しい県民文化の創造を図ることを目的にして、次々と県内13会場で祭典を繰り広げられました。

オープニング フェスティバルで幕開け

大ホールで開かれたオープニングフェスティバルは、日本ハーブ協会北陸支部によるハーブアンサンブルで幕開け。「花のワルツ」や日本民謡をアレンジしたメドレー曲に美しい調へを響かせました。

セレモニーでは、川上実行委員長の開会宣言をはじめ、栗田知事らの挨拶、全国公募のキャッチコピーで最優秀賞に選ばれた飯島真美子さん(札幌市)ら3人が表彰されました。続いて「みんながワイワイ・オンステージ」に移り、洋舞、民謡、日舞、邦楽など公募された13の文化団体が白旗の練習の成果を次々に披露し、客席から大きな拍手がおくられていました。また、ホワイエでは茶席が設けられたほか、華道各流派の作品が展示され、約千人の市民が文化の祭典の幕開けを楽しんでいました。

基盤整備を進めようと新しい装いで、県文化協議会を中心に県など12団体の代表で実行委員会(委員長川上正志県文協会会長)を設けて、今年初めて実施する運びとなったものです。また、県文協が従来の音楽、美術、文学の分野で開いてきた「県立芸術祭」を発展的に展開し、洋舞や音楽、民謡民舞、生活文化、華道、

分野別フェス・13会場を彩る

芸術の秋を満喫

15分野 200団体参加

分野別フェスティバルは、9月10日、鯖江市文化センターで開催された洋舞フェスティバルを皮切りに県内13会場で、左表のとおり各ジャンルの祭典が、延べ200団体が参加して繰り広げられました。この祭典にはより多くの県民が参加することで県民文化祭を盛り上げようとフェスティバル形式にしたのが特徴といえます。また、県内の文化芸術団体が流派を超えて一堂に集うのも画期的なことで、各会場とも出演者の家族やファンが詰めかけ、実りの多い祭典で盛り上げていました。

これまで流派やグループごとの発表会などが開催されてきましたが、先ほど行われた洋舞フェスティバルには、県内のバレエ教室や研究所など50団体が出場し、クラシックからジャ

ズダンスまで華やかなステージを披露。邦楽フェスティバルでは、流派を超えた200団体が参加。国民舞の祭典では7団体、日舞では日本舞踊の祭典と銘打ち、14社中が流派を超えた祭典として開催。県内では初めてのこの企みは、芸術文化のレベルを高め、福井県の新しい文化の創造につながり、また鑑賞する立場からも芸術の秋を満喫できる催しとなりました。

分野別祭典に参加した団体の代表者に、この取り組みの意気込みやご意見を伺いました。

参加団体代表に聞く

流派を超え
国民文化祭へ

宗生流剣詩舞道会
代表 中嶋宗聖さん

各流派が初めて一堂に会する大会として大きな意義がありました。今後更なる重ね、より技の向上を目指し、17年度の国民文化祭に向け、福井県の文化を高めていきたいと思っています。

フェスティバル
合唱団を結成

県合唱連盟
会長 藤川一芳さん

従来から開催していた「コミュニティ・コーラスフェスティバル」に一般公募のメンバーを加えて「フェスティバル合唱団」を結成し合唱音楽祭を開催できることは、この界の大きな前進になります。また、今回国内の優れた指導者派遣の財団助成制度を適用いただき感謝しています。

交流の場と
新人育成に力

勝美流粉芸会
代表 野美伊三枝さん

県文協にも加入しましたので、この機会に他の流派の方とも交流の場をもてることを嬉しく思っています。稽古場も新しく設定して力を入れ、特に新人の育成を目指し力一杯頑張りたいと思います。

県民文化祭参加育成に 財団助成制度を創設

財団では、平成12年度よりふくい県民文化祭の参加育成を支援するため、分野別フェスティバルに参加する文化団体に助成制度を創設しました。本年度は申請に基づき、同祭典に参加するため芸能、技術水準の向上を図る研修会などの開催を対象に、日団体、総額200万円の財団助成を行いました。



9/17 20団体が出場した邦楽フェスティバル＝ハーモニーホールふくい



9/10 個性あふれる舞台をみせた洋舞フェスティバル＝鯖江市文化センター



10/6-15 豊かな感性あふれた作品が展示された美術フェスティバル(第53回得美展)＝県立美術館



10/22 14社中が参加した日本舞踊の祭典＝鯖江市文化センター

分野別祭典 開催日程

名称	期日	会場
洋舞フェスティバル	9月10日(日)	鯖江市文化センター
邦楽フェスティバル	9月17日(日)	ハーモニーホールふくい
生活文化フェスティバル	9月23日(祝) 9月24日(日)	福井市 ビア
国民舞フェスティバル	10月1日(日)	大野市文化会館
美術フェスティバル 第53回福井県総合美術展	10月6日(金)～ 15日(日)	県立美術館
華道フェスティバル	10月7日(土)～ 10日(日)	福井市 ベル
日舞フェスティバル 日本舞踊の祭典	10月22日(日)	鯖江市文化センター
茶道フェスティバル 県民野点大茶会	10月22日(日)	福井市美術協社
吟詠剣詩舞フェスティバル	10月29日(日)	敦賀市プラザ万象
大正琴フェスティバル	11月5日(日)	福井市文化会館
能楽フェスティバル	11月11日(土)	福井市能楽堂
合唱フェスティバル	11月23日(祝)	ハートピア春江
演劇フェスティバル	12月2日(土) 12月3日(日)	ハートピア春江
音楽フェスティバル 第52回福井県音楽コンクール	コンクール方式	
文学フェスティバル ・福井県川柳大会 ・福井県俳句大会 ・福井県短歌大会 ・ふくい文学祭	9月24日(日) 11月12日(日) 11月26日(日) コンクール方式	フェニックスプラザ 県民会館 敦賀市プラザ万象

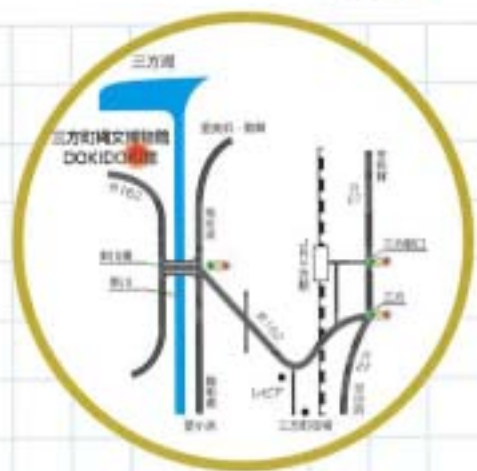
縄文のこころ
をたずねて

三方町縄文博物館訪問

今春、三方町鳥浜に誕生した縄文ロマンパークの中核施設としてオープンした三方町縄文博物館を訪ねました。初めて当地を訪れて大変戸惑いました。周りに博物館らしい建物は見当たりません。博物館は、「丸い土盛りの丘の下」といわれ案内されました。同館は「縄文」のタイムカプセルのように、愛称「DOKI DOKI 館」にふさわしく地下にどっしりと埋まっています。

縄文文化を学び、地球環境を考える博物館

福井県三方町の農芸員は、昭和37年（1962）に初めて調査の手が加えられ、およそ4半世紀、10次にわたる発掘調査が行われました。その成果と出土遺物は、わが国における縄文時代の学説やイメージを根柢からくつがえす画期的なものとなりました。また、近年、青森県の三内丸山遺跡をはじめとする日本各地で貴重な出土遺物の発見が相次ぎ、人々の縄文文化への関心



開館時間/9:00~17:00
休館日/12/29~1/3

施設のあらまし

構造/鉄筋コンクリート2階建
延床面積/2620.5m²
展示・教育活動部門 1132.9m²
保管・研究部門 792.6m²
管理部門・その他 695.0m²
最高高さ/13m



太古の森を象徴 縄文ホール

同館の常設展示は「森と海・湖の文明」「土の遺り」「縄文人の祈り」など縄文のこころをキーワードとして構成されています。展示コーナーを順路に従い見学することになりました。

2階のエントランスから入館すると「縄

文」が高まっています。四階は、農芸員家の紹介をはじめとして「縄文」をいろいろな方向からとらえることにより縄文文化を学び、地球環境を考える博物館として今春、4月29日にオープンしました。



遮光器土偶（レプリカ）
岩手県田代村岩倉II遺跡出土

縄文プロムナード

縄文時代は女性中心の社会でした。それは縄文の土偶の大半が女性であること、しかも妊婦であることから分かります。人間の生命を生み出す女性が大きな役割を果たしていました。縄文のこころは母のこころといえます。

プロムナードは、土偶を一つの象徴とした縄文の世界を照明・音響効果による演出で、いざないの空間となっています。



黒縄子土器(シブツミ) 縄文時代前期

黒縄千層目土器(シブツミ) 縄文時代前期

丹波土器(シブツミ) 縄文時代前期

縄文文明を知る 土器の径

縄文文明は、土器にこだわった文明世界でした。縄文人は1万4千年以上に土器革命を成し遂げ、土器づくりを始めました。土器づくりに必要な土と水と炎は、森と雨に恵まれた日本の風土の贈り物だったといえます。土器は、定住生活を可能とさせ、家をつくり、家族が団らんする生活を始めたと考えられます。陳列された「土器の径」は、縄文人の芸術性・精神性を感じ取ることができます。

森と海・湖の文明 丸木舟展示

鳥浜貝塚の縄文人は、三方湖の魚介類や湖岸のヒシの実をとって生活しただけでなく、若狭の海から更に日本海に進出、日本海側の諸地域と交易を行い、そして、遠く東シナ海を経て中国江南にまで達した可能性があります。

ユリ遺跡2号丸木舟出土状況を再現



性さえあります。縄文人にとって海と湖は豊かな食料をもたらしてくれるとともに、新たな文明と接触する機会をあたえてくれる交易路でもありました。

このコーナーでは、町内の縄文遺跡から出土した丸木舟を中心に、世界各地で今使われている丸木舟などを展示しています。

鳥浜貝塚 縄文のタイムカプセル

鳥浜貝塚は、今から1万4千年前から5千7百年前の縄文時代の前半の日本最古の低湿地遺跡であったため、縄文のタイムカプセルといわれています。

縄文時代の人たちが私達現代人に残してくれた豊かな情報が鳥浜貝塚なのです。同遺跡からは、20数万点に及ぶ出土品がありましたが、その出土遺物から縄文の新たな文明像が解明されています。

鳥浜文化の展示では、縄文時代の技術、色彩豊かな縄文ファッションなど今までの縄文人のイメージを書き換えた鳥浜文化を強調しています。

縄文の精神世界

縄文人たちは、自然への畏敬の念を持ちこの世の生きとし生けるものはすべて死んでも生まれ変わるといふ再生と循環の世界観をもっていました。現代文明の大産生、大量消費時代や地球環境問題を考える時「鳥



鳥浜村の1日を紹介したジオラマ

縄文時代の各時期の年代

縄文時代	草創期	14000~11800年前
	早期	11800~7000年前
	中前期	7000~4500年前
	後期	4500~3200年前
	晩期	3200~2300年前



縄文の精神世界を展示したパネル



縄文時代の技術・暮らし・文化を紹介

浜」の英知は21世紀への警鐘ともなっています。

縄文人は、土器革命と定住革命をなしとげ、家族生活の始まりにより、家族、個人を大切にする社会を築きました。

縄文土器の全面には、縄の紋様が造型されており、これは縄文の精神世界を表現しております。

参加できる博物館へ

回館では「観(み)せる博物館」としてだけでなく「参加できる博物館」として、「縄文」をテーマにした国内でも珍しい博物館にふさわしい事業計画をたてています。

すでに学校の夏休みなどを利用した土器づくり教室を定期的に開催しているほか、穴住居での体験宿泊や丸木舟製作などの具体的な計画もたてておこなっています。

また、縄文を多目的に考察する縄文学講座を専門家を招き、本年度は3回開講することになっています。すでに第1回目は9月30日(土)福原高等学校での講演が行われました。

敦賀市中学生・ドイツへ友好親善

帰国
座談会



ローゼンフェスト（地元の祭り）に浴衣と法被姿で参加した派遣団のみなさん

帰げんでんふれあい福井財団と日本原子力発電株の共催により敦賀市内の中学生5名が東海村（茨城県）の中学生5名と合同で7月19日から28日までの10日間、ドイツ連邦共和国を親善訪問しました。

この派遣事業は、国際的視野に立った若い人材の育成と友好親善を深めることを目的に日本原電の海外協力協定先のドイツネッカー共同原子力発電会社（GKN社）のご協力を得て実現したもので、平成10年7月に続き、今回で2回目の実施となりました。今回の派遣事業に参加した中学生と先生に帰国後、座談会を開き、ドイツでの感想・体験などについてお話を伺いました。

【参加生徒】

江村 奈美さん（栗野中） 田辺 雅一 君（栗野中）
清水 誓子さん（気比中） 西原奈美子さん（松陵中）
木村明日香さん（角鹿中）

【同行の先生】

佐竹由美子教諭（松陵中）

ホームステイ

国・言葉を越えて感動のふれあいを体験

みなさん、はじめてドイツへ行かれてドイツの第一印象は
全員、緑の多い風景と町並みのきれいなのにびっくりしました。



田辺君

田辺 ドイツの空港に着いて、空港の前に並ぶタクシーが全部「ベンツ」で、初めてドイツへ来て「すごいなあ」という実感でした。

木村 古いお城や石畳の道を歩いて、頭で描いていたヨーロッパの風景と歴史がマッチし、今ドイツへ来たという感じをうけました。



木村さん

ドイツでの4日間、ホームステイを経験されましたが、いかがでしたか。
江村 今考えてみれば、10日間の旅行の中で一番楽しかったのは、ホームステイでした。最初のうちはすごく緊張しましたが、ホストファミリーのやさしい心使いやバトミントン、ゲームなどの遊びを通して英語、ドイツ語に弱い私の不安を解してくれました。

清水 今回の親善派遣で私が一番学ばれたことは「食事の習慣」と「あいさつ」で、主にホームステイ先で学ぼうと思っていました。私は西原さんと同じ家庭で、一

ドイツ訪問日程

7/19 水	午後、敦賀出発。成田空港へ、成田にて東海村中学生と合流し、成田市、東フランス村270番にて宿泊。
7/20 木	午前10時乗車しドイツへ、シュトゥットガルト到着。市内観光。昼食。アルシッペハイム村に到着。GKNハイムセンターを見学。GKN自衛隊見学。その後のシュトゥットガルト市内観光。【ホームステイ先】 ①
7/21 金	ザムリッペハイム村滞在観光。ホッパイブロー【ホリブストリッヒ】にて観光。バーベキューパーティー。【東海村プレゼンテーション実施】 【ホームステイ先】 ②
7/22 土	午前中、ホストファミリーと自衛隊。午後、ローゼンフェスト（地元の祭り）参加。【東海村プレゼンテーション実施】 【ホームステイ先】 ③
7/23 日	夕方までホストファミリーと自衛隊。【ザムリッペハイム村】 ④
7/24 月	バスでハイデルベルグへ移動。コーデンブルク、ハイデルベルグ市内観光。【ハイデルベルグ】 ⑤
7/25 火	バスでシュトゥットガルトへ移動。シュトゥットガルト市内観光。【ベンツ、メルセデス博物館】 【シュトゥットガルト】 ⑥
7/26 水	午後、フランス村270番にてシュトゥットガルトからパリへ移動。ルーブル美術館見学。【パリ】 ⑦
7/27 木	パリ市内観光（凱歌門、エッフェル塔等）。午後、フランス村270番にて宿泊。帰国の前へ。
7/28 金	午前、成田空港まで一平車。敦賀着（解散）

家には13才のサマという女の子がいました。ホストファミリーの人達は、英語の速い話し方で、よく聞けば知っている単語も聞き取ることがありさまで、初めは当惑しました。



江村さん

「食事の習慣」と「あいさつ」は悪戦苦闘しましたがなんとか学びとることができました。ホームステイの最終日「グーテンモルゲン」とあいさつできました。

西原 清水さんと一緒でしたので、少しは気が休まりました。家族の方が簡単な英語で説明してくれたり、分からない時は、絵を書いて説明してくれました。また、日本からのお土産を差し上げたら「クリスマスプレゼントみたい」と大変喜んでくれたことが印象的でした。

清水・西原 ホームステイ最後の日、昼食に2人で「そうめん」をつくり、箸の持ち方を教えてあげ、家族に食べていただきました。



プレゼンテーションに茶道を紹介 人気を集めました

サラさんはあまり気がすまない様子でしたが両親は結構食べていただき、大変喜んでくれました。

報告訪問の最初に、グムリツヒハイム町役場を訪れた様ですが、その時の様子は田辺 3日目、町役場を表彰訪問しました。モニカ町長さんは女性で、我々一行をやさしく迎えてくれました。僕は、教育市長さんからのメッセージを渡し、大役を果たした気分になりました。

その後、ホームステイのお母さんが町役場で働いていることもあり、仕事場を見せてもらいました。職場は女性の職員が多いことに気がつきました。



清水さん

パーティやローゼンフェスト(地方の祭り)に参加したり、そこでプレゼンテーションなどを実施したそうです。

木村 バーベキューパーティーのとき、プレゼンテーションに茶道を紹介しました。

ドイツの人々が道具をさわったり、興味深く見ていただき、うれしくてすごく感動的でした。

江村 ローゼンフェストバルのバレードに参加し、下駄ばき、浴衣姿で歩きながら囃子やしおりを渡すとDance(有舞)といって喜んで受け取っていただきました。また珍しい飯糰も沢山あって楽しい交流でした。

中学校に到着して、折紙をやり始めたたら大変な人気となり注文が多く、1時間ばかり続けました。日本の遊びに人気があり、うれしく思いました。



ハイデンベルグ城を見学して...

田辺 学校ではドイツの子供にゲームを教えてもらったり、一方、こちらからはヨーヤゲン玉を教えてあげました。

前日のバーベキューパーティーには、僕はつびを離れて「マジック」を披露しました。一つ目を少し失敗しましたが、その時笑ったお陰で、かえってリラックスしてやれました。終わった時大きな拍手をもらい、マジックは言葉が通じなくても理解してもらえるすばらしい友好交流のかけ橋だと思いました。



西原さん

初めは緊張したホームステイもお別れにはどうでしたか

全員 ホストファミリーとの別れには熱くこみあげ、泣いてしまいました。ファミリーも涙をためていました。またお会いしたい。お手紙を書きます。約束を誓い合いお別れしました。

佐竹 生徒達が言葉も生活習慣も違うドイツの家庭で寝起きを共にし「他人のめしを食べる」を体験したことは、生徒達にとって貴重な体験だったと思います。いつも内からみる目と外から入って経験してみる目

があつて、自分の生きる道を歩むことが大切。その点でホームステイはすばらしい成果をもたらしたのではないのでしょうか。

ドイツでは古墳やペンツ博物館を見学したようですが

田辺 今回楽しみにしていたペンツ博物館を見学でき、クラシック車をはじめ最新の車までいろんな車を見て、将来是非乗りたい車もあつて大変参考になりました。

江村 ハイデルベルグ古城、でかいワインの樽の伝説などすごい迫力を感じました。また、ロマンチック街道を散策することができ、ヨーロップ風の身近かさになれることができました。



佐竹先生

全員 バリのループル美術館では、その広さや有名な絵画や彫刻などが多く所蔵され、一日ではとても鑑賞しきれないことにおどろきました。特に名画「モナリザ」をじかに鑑賞して感動しました。

今回の体験を今後どう活かされますか
全員 中2の夏の今回の旅行は又とないすばらしい体験でした。これからドイツの歴史や文化など勉強して、英・独語を話せるようになって、もう一度ドイツにいきたいです。

佐竹 今回の旅行はただの観光目的の旅行と違って、ドイツの小さな村でその村の人達とのふれあひの中に、心の通った理解への喜びをわかちあひ、外国語の必要性を感じながら交流を進めた友好親善の旅であつたと思います。生徒達は10日間、すばらしい体験の土産を持って成長したと思います。



フクイデザインマインドコンペティション2000 公開審査会

Fukui DESIGN MIND competition

主催：福井県、共催：福井県デザインセンター
 協賛：福井県教育委員会、福井県立総合教育センター、福井県立大学、福井県立短期大学、福井県立看護大学
 後援：福井県庁、福井県商工労働振興会、福井県青年会議所、福井県女子青年会議所、福井県学生自治会連合会



ステージ上で社会問題の解決策を説明する参加チーム

このコンペは、県と(財)県デザインセンターの主催(協賛・(財)げんてんふれあい福井財団)で、今年で3回目、過去最高の34チームが参加し、一般の部では、1次審査を通過した6チームが出席。高校の部では、県内6高校から10チームが公開審査会に臨みました。

各チームは、寸劇を取り入れたり、自作のコンピュータグラフィックスやパネルなどを使い、7分の制限時間内で、それぞれ趣向をこらしてデザインに至るまでの過程を発表しました。審査は、武蔵野美術大学教授の長澤忠徳氏、松山道明(福井県デザイン協会会長)氏、浦山頼子(消費生活アドバイザー)氏が当り、「課題発見の視点とその分析力」「解決、改善提案のまとめ方」「プレゼンテーションのわかりや



財団では副賞として受賞者に越前漆器製のオリジナルトロフィーを贈呈しました

ッチン革命を提言。銅賞の仁愛短大、幼児教育学科チーム(岡本直美・広浜真紀・川原万里子さん)は、「子供たちが群れて遊ぶ時間や場所の回復を目指して」をテーマに、寸劇や絵を使って演出。恵まれた自然の中で子供達が群れて遊ぶ理想の空間を実現することを提示していました。

高校の部では、丹南高校チームが銀賞を獲得。「青少年における犯罪の増加」を取り上げ、対話劇やパネル等を使い、その要因を指摘、解決策として相談室の設備やあり方、カウンセラーの充実、心のコミュニケーションの必要性を指摘していました。

銅賞は、登壇上のMOMOチームが受賞。「ヒトを捨てる現代社会」をテーマに、ハイテク時代の華やかさにおぼれず、古来の技術や経験を活かす伝統工芸の漆器づくりを取り上げ、職人の街づくりなどを提起していました。また、高校の部では、学校生活に身近な問題の発表が自立し、教習生のMUKKチームは「近未来の制服」を提案し、審査員特別賞に選ばれました。

金賞

一般の部 「iils」チーム
 高校の部 「武生工業2年2組」

フクイ デザインマインド コンペティション2000

社会や暮らしの問題 解決策にユニーク提言

社会や暮らしの中から課題を見つけ、その解決策を提言するまでの内容や技術を競う「フクイデザインマインドコンペティション2000」の公開審査会が10月1日、福井市の県国際交流会館で開かれました。

審査の結果、一般の部では「iils(エルス)」チーム(青山謙二さん、八木朝子さん、武生市)・高校の部は「武生工業高校2年2組」チーム(浦辺美里さん・深山優さん・川崎文香さん)がそれぞれ金賞に選ばれました。

「Design」って…

デザインとは「職匠」や「図案」と言われるような、きれいな絵を描いたり、形を作ることを示すものではありません。

広い意味で「デザイン」をとらえた場合、課題を発見し、その解決策を考えだし、その内容を表現するプロセスであると言えます。

デザインは、産業振興を図る上ではもちろんのこと魅力あるまちづくり、生活文化の創造を図っていくうえでますます重要なものになってきています。

	チーム名	テーマ
一般の部	金賞 iils(エルス)	「捨てる」を「捨てる」
	銀賞 Dorami Angels	食卓のEnjoy do! ~あなたは食卓を自慢できますか?~
	銅賞 仁愛女子短期大学 M11&M07205たち	子供達が群れて遊ぶ時間や場所の回復を目指して
高校の部	金賞 武生工業高校 2年2組	愉快な駐輪場
	銀賞 丹南高校 コイマンマン~野郎 をかきめぐる~2000	青少年による犯罪の増加について
	銅賞 春江工業高校 MOMO	「ヒト」を捨てる現代社会
	審査員特別賞 敦賀工業高校 MUKK	近未来の制服

金賞に輝いた2チームの発表のあらまし

高校の部

テーマ 愉快的駐輪場

武生工業高校2年2組チーム



テーマを発表する武生工チーム

テーマを発表する武生工チーム
寸劇やパネルを使い提案して
いました。

プレゼンテーション方法

スピーチ/劇/CG/パネル

舞台上に自転車を持ち込み、ある朝の学校の駐輪場の風景を演出。「隣の自転車中途半端な所に止めて、出られん」「鍵をかけておいたのに車がない」など毎日のように駐輪場で誰かが不愉快な思いをしています。
そこで、既存の駐輪場の問題点として、●使いやすさ●防犯面●駐輪の方法に問題があると考え、これらの改善策に取り組みました。その概要は①駐輪場の屋根は傘状、柱を中心に放射状にセットしたポップな設計とする。②柱に景観のとれたゴミ箱を付設。③車をロックする錠錠はペン型キーによることとし、運勢占いや天気予報を表示できる柱の仕組みとセットして、楽しみながら使える「愉快的駐輪場」を、寸劇やパネルを使い提案して



武生工チーム発表パネル

一般の部

テーマ 「捨てる」を「捨てる」

ils (エルス) チーム



ilsチームの発表

「リボックス」ゴミ箱を設計。アニメで紹介し、関心を集めていました。最後に、モノに
対するおもいやりと自己責任
を持つこと。更に「自然に対
するおもいやり」をもつこと
が明日をデザインすることに
繋がると説明していました。

プレゼンテーション方法

スピーチ/CG/パネル/模型

モノを捨てるという行為は、自分の所有物を放棄すること。「ゴミ」として「捨てた」瞬間、自分の所有する責任を「捨てた」ことになります。そして、それは「ゴミ」の分別化、リサイクルなどを怠る行為に繋がります。このことを前提として、コンビニエンスストアに置く「ゴミ分別ステーション」に着目しました。プラスチック製品についてはマークにより7分類した
ラインボーカーの投入口や燃える資源、并置バック、
ベットボトル、缶、ビン、の投入口をセットした「リボックス」
「リボックス」ゴミ箱を設計。
それぞれ模型やコンピュータ
アニメで紹介し、関心を集めて
いました。最後に、モノに
対するおもいやりと自己責任
を持つこと。更に「自然に対
するおもいやり」をもつこと
が明日をデザインすることに
繋がると説明していました。



ilsチーム発表パネルと模型



第3水曜日から日曜日研究会
＝福井市社協ボランティアルーム

がもっと
楽しく暮
らせるた
めのガイ
ドづくり
に力を入
れていき
たいと思
います。」
と語って
います。

点訳ボランティア

おとろくんの

ボランティア

がんばっています

さんすいくらぶ(代表三上啓一さん)の会
員は、暑は現役として働き、約9ヶ月の点訳
夜間講座を修了した同志が、平成7年5月、
同くらぶを結成。また、本年は3月夜間講座
修了者などから14名を受け入れ、現在26名の会
員で奉仕活動を行っています。

主な活動としては、一般図書や点訳した図
書を県点字図書館へ寄贈、著名な作家の小説
や詩集など現在までに27冊に及んでいます。
また、点字図書館からの依頼の点訳に協力す
るほか飲食店の点字メニューの普及活動など
にも力を入れています。

今年の8月には、東海北陸車いす福井集會
の送迎券や食事券の点訳に協力するなど心の
通じボランティアに積極的に取り組んでいます。
この会では、点訳は全員パソコンで行い本
年度は、財団の助成を得て5台を購入、より
速く、確実性のある点訳活動を進めています。
同会の代表三上さんは「この会は昼間は仕事
をし、夜間講座を修了した根性あるもの同志
の集まりです。毎月第3水曜日の夜の研修会
を更に充実し、目の不自由な方にとって福井

シリーズ
ふくいの
伝統芸能

国選択無形民俗文化財

国山の神事

福井市
国山町

福井市国山町に古くからうけ継がれている伝統芸能国山神事が、来年1月3日、4年振りに同町の鎮守八王子神社で、宮座（氏子組織）を中心に町あげでの行事として、厳肅に奉納されます。

神事の奉納4年に1度

国山神事は「ナルワイ」あるいは「タガヤシ」と言い、当年の五穀豊穣を予祝祈願する豊園で行う田遊びの神事で、約4百年の歴史があるといわれています。

昔は、毎年2月に在家で3晩（3、4、6日）と神社本番（7日）の4回行われてきましたが、昭和44年（1969）から集落の過疎化などで神事の維持が困難となり4年に1度、日も新暦の1月3日に繰り上げ、オリンピック開催の翌正月3日に、神社で奉納されることになっています。

神事の次第

平成9年1月に行われた奉納記録によつて、その神事を追ってみました。

1月3日、早朝4時頃、集落の家々が集切りに出向き、長さ2〜3米の柴枝を神社に持参、これを天井に吊るし、神社の舞台作りが行われます。

午後には、大番様（元旦の夜、餅掘きを行い1斗1升の大餅をつくる）の「あげそめ」の儀式が行われ、拝殿に防られます。一方、太夫宅では、太夫の装束付けの儀式

が行われ、また、社人衆は、隣接の寺に集合し太夫より少し先に神社に参り所定の席につきます。

18時頃、寄せ太鼓が打たれ、神事の始まりが告げられます。

18時半、両太夫は「トウトウマンザイ」の掛声とともに神社に参り、般若心経を上げ齋座。そこで東西の酌取りが昔ながらの動作にのっとり太夫らに御神酒がふるまわれ、次に豆打ち儀式（味噌豆打ちの意味）があつて神事が始まります。

農作業を模擬して 唄い、舞い、豊作を演出

神様から番様役によって大番様（大餅）が降され、中央の穴に棒を通し、社人衆の「しっかりと持ちなさい」の掛声を合図に両太夫が肩に担ぎます。古太夫の「東西東西」の発生と同時に「しやうの言い立て」

を声明調の厳肅な唄いで15分程続きます。
20時半「種付け」を寄せ太鼓と同じ要領で西の太夫が太鼓を打ち、社人衆が唄います。
20時40分、両太夫と社人衆が太鼓の周りを囲んで、桑の木の棒で太鼓を打つ「蹴打」が始まります。
21時、西の太夫が「種漬け」と同じく太鼓を打って「夏の草取り」を唄います。
21時10分、「奥州へ牛買ひ下る事」を両太夫の間答形式で「しやうの言い立て」と同じように45分程唄えます。



榎の棒を振り、田へ引く水の水口を作る口上を述べる「東西の棒振り」



田主がお蔵いの後田植えさせることを述べ舞が始まる

神事の役人たち

- 社人衆/神主4人と神主見習4人の計8人で「ダモセ」の儀式を演じます。
- 太夫/東西両座より1名づつ選ばれ、神事の主役をつとめます。
- 田主/田植えに登場する役、両座の青年から1人選ばれます。
- 棒振り/田の代を均すエンブリ役、東西両座から各1人、2人で舞います。
- 早乙女/田植えをする役、4〜8歳位の男児8人があつります。
- 酌取り/東西両座より1名づつで、太夫に酌をします。
- 番様/大番様（大餅）を作る当番

22時、西の太夫による「東西の種まき」が同じ要領で行われます。続いて「壺のはか」。「田のほめること」が行われます。
22時45分、始めて田主が登場し、お蔵いの後、早乙女も登場、双方とも太鼓の周りを廻りながら社人衆の唄いに合わせて舞います。20分程度すると東西の棒振りも口上を述べた後、舞いに加わります。
23時半頃、唄いのテンポが早くなり、終わりが近いことを知らせ、「乱れて早乙女」の唄いを最後に役人達がすばやく退場する時に天井に吊してある柴枝を村人達が一斉に引き落します。
寄せ太鼓が始まり約1時間、神秘的で厳肅な奉納神事は終演を迎えます。



大餅を通した棒を担ぎ「しやうの言い立ての事」を唄い始める主役の太夫

敦賀市立博物館所蔵 復古大和絵誌上展

敦賀市立博物館では、9月15日から1ヶ月間「復古大和絵～冷泉為恭を中心として～」と題して特別展が開かれました。

今回は、同館所蔵の復古大和絵派の物語絵など4点を紹介することにしました。

忠孝図

楠正成・正行離別図

冷泉為恭筆

この図は、「太平記巻第16」から出典したもので、楠正成が、摂津国・桜井の駅において、足利尊氏の大軍との合戦を予期し、「父の意志を継いで君に忠節を尽くすよう」嫡子・正行に厚々と簡した決別の場面を絵画化したものです。

忠孝図対幅、江戸末期の作。為恭は、嘉永3年（1850）公家岡田泰純の養子となり、文久2年（1862）近江守に任ぜられます。晩年は攘夷派に襲撃され逃避生活に明け暮れる身となり、42歳の若さで非業の最期をとげました。（右上图につづく）



忠孝図

平重盛・清盛鎌言図

冷泉為恭筆

この図は、後白河法皇の平氏討伐への密旨に対し、平清盛以下一門が甲冑を着用集合した際、清盛の嫡子・重盛は平服で参じ、朝廷に背くことを戒めたという故事の絵画化です。この説話の出典は「平家物語」「巻第2・第18句（大教訓）」に求められます。

冷泉為恭は、文政6年（1823）9月生れ、幼少の頃より狩野派の画法を学ぶ一方、それにあきたらず復古大和絵派の始祖・田中訥言に私淑し、数々の復古大和絵を残しています。（左図下につづく）



鶴包丁図

田中訥言筆

本図は、まな板の鶴を前にして、衣冠に身を整えた内膳司の包丁人が右手に包丁、左手に料理箸を構え、これから故実ののちとって調理に移る直前の姿を描いています。

この儀式は正月17日、禁中清涼殿において行われ、その料理を天皇をはじめ公卿らが吸物として食されました。

この図は文化8年（1811）、訥言45歳の作品。訥言は、尾張名古屋の人で、京都に住み、復古大和絵派の始祖といわれ、数多くの作品を残しています。文政6年（1823）57歳で死去。



高台図

冷泉為恭筆

この図は、仁徳天皇が高楼に登って、四方の民家を見渡すと、かまどの煙が途絶えていたことから、3年間人民の課役を免除した後、再び高樓に登り、家いえから煙が立ち昇っているのを見て安堵されたという仁政の故事を絵画化したものです。

為恭は、「源氏物語」などの古典文学、「太平記」などの歴史物語や「古今和歌集」などの歌集に通曉し、有職故実にも造詣が深く、これらを原点とする典雅な作品の中にその機微がうかがえます。



狂言を楽しむ会

今秋国の文化功労者受賞 茂山千作師一門

福井 公演
観劇

附団では人間国宝の茂山千作師一門を起き、「狂言を楽しむ会」(日本原電協賛)を10月19日 敦賀市プラザ万象の能楽堂で昼と夜の部に分け開催しました。また、これに先立ち、10月1日 福井市能楽堂で、泉観世能楽会が主催(湯附団共催)した同観賞会が開催されました。

日本古来の伝統芸能「狂言の世界」をどう見たか、再会場からその感想を聞きました。

中学生体験学習で参加

19日の昼の部では、敦賀市内の中学生(栗野・魚田・東浦・西浦中)約450名が体験学習として狂言鑑賞しました。

公演の始まる前に、狂言の由来、能舞台や使われる小道具、能と狂言の泣き、笑いなどの役者の演出について解説が行われた後、「柿山伏」と「附子」の2曲が演ぜられました。附子は小学校の教科書にも登場する有名な狂言だけに、会場から時折り笑いが巻き起こり、役者の演技に大きな拍手が送られました。

千作師に終始 笑い大きな拍手

夜の部では、約5百人のファンが会場を埋め、公演に先立ち、狂言は身近な庶民の生活に根ざしたストーリーが多いことなど「狂言の世界」の解説があり、「昆布売」「栗焼」「鏡渡」の3曲が演ぜられました。

栗焼きでは、この狂言の文化功労者に選ばれた人間国宝の茂山千作師が太郎冠者で登場。買ひ物の40個の栗を焼くことを命ぜられた冠者のコメディカルな動作やセリフに大きな笑いが沸き起こり、師の円熟した演技に終始大きな拍手が送られました。



「栗焼」で円熟した演技を披露する茂山千作師



「附子」を演ずる太郎・次郎冠者と主人役



体験学習として狂言鑑賞に集った中学生

「狂言の世界」をどう見た

生の狂言で
いい経験になった
栗野中 1年
高木 祐介

狂言は小学校の時一度国語の授業で習ったことがあります。文と教科書の小さなさしえでは狂言と言うものがよくわかりませんでした。でも今回は目の前で見ることで、とてもおもしろかった。事前に説明もあり、とても分かりやすかったです。いきなり大きな声で笑ったり、泣いたりしてびっくりしました。

ほくたちは「柿山伏」と「附子」の2曲をみましたが、「附子」は小学校で習ったことのある狂言だけに、だいたいの内容がわかっていましたので役者の演技に目がはなせませんでした。本当に楽しい時間だったと思います。そして、いい経験になりました。

新世紀の能・狂言 再興を願う

泉観世能楽会
組合員 細川 政治さん

狂言といい、能といい、もともとは猿楽から発達した伝統芸能です。古くは交互上演が原則でした。

最近では、能楽よりも狂言ブームが起きています。若手の狂言師がマスメディアで人気を集め、狂言だけを上演する機会も多くなりました。もともと狂言は登場人物も少なく、舞台装置や小道具もほとんどいらぬ手軽さがあり、能は難解な文語体の歌舞伎なのに対して、狂言は分かりやすい口語体のセリフ劇です。21世紀も近い伝統芸能にも「温故知新」の意味をこめて、この狂言ブームが、狂言と能の関係を見直し新世紀の能・狂言再興への契機になってほしい。私も能楽愛好者は願っています。

狂言は人間らしさ
笑いあり親しみやすい
魚田中 3年
村治 弥生さん

今回初めて狂言を鑑賞して、とても良いものを見れたと思います。狂言というものは、どこかた苦しく、あまり触れたくないものでしたが、実際はイメージとはとても異なるものでした。狂言はその言葉の一つ一つがとても人間らしく、協調性があり、そして笑いがあり、とても親しみやすいものでした。「笑い」というものは時代を超えて変わらないものだと感じました。住時の人達が狂言を見て笑っていた意味がよく分かりました。私が狂言でおもしろかった所は、その表現のしかたです。手を使い、セリフを通し人間はこんな表現のしかたがあるんだなと感じました。今回の狂言鑑賞は貴重な体験でした。また、狂言だけでなく日本の伝統文化に触れたいと思います。

第4回

福祉寄席を開催

上方落語

桂文喬さん

三味線漫談

内海英華さん 招く

財団では、高齢者、障害者とのふれあいを通して、人に優しい生き甲斐づくりの輪を広めようと10月24日から3日間上方落語家桂文喬さんと三味線漫談の内海英華さんを引き、県内6つの福祉施設（別表のとおり）を巡回して福祉寄席を開きました。

10/24 (火)	10:00~	敦賀市	湊山荘
	14:00~	武生市	福井県 越前みどり村
10/25 (水)	10:00~	勝山市	九頭竜身障者 ワークショップ
	14:00~	勝山市	さくら荘
10/26 (木)	10:00~	福井市	福井市 ふれ愛園
	14:15~	丸岡町	長寿園



名調子で拍手を浴びた内海英華さん
—九頭竜ワークショップ

各施設の会場には入所者をはじめ最寄りの福祉施設や敬老会のお年寄りらが詰めかけ、3日間で延800余人が参加、盛況のふれあい寄席となりました。

寄席では、初めに三味線漫談の内海英華さんが登場。「どんどん節」やその替え歌「都々逸」などを披露、終りに相撲太鼓を振った独特の三味線の音色を奏して大きな拍手が湧きました。落語の桂文喬さんは、

修行当時のエピソードや地方なまりを取り上げた小話を面白く解説。本題では「相撲場風景」「親子酒」「宿がえ」など会場毎に演題をかえた落語を、演技を交えて熱演し、爆笑をよんでいました。

2日目の九頭竜ワークショップでは入所者らの10月誕生会と合同開催となり出演者に花束や記念品が贈られるなど冬会場とも歓迎ムードの満ちた寄席となりました。

私は「福祉寄席」を
こう見ました……

みんな大変満足
今後も笑う機会を

丸岡町 長寿園
生活指導員 高木 円さん

生で見ると、聞く落語は、役者の表情とか動作が身近に感じとれ、大変おもしろかった。また、三味線漫談も、当施設に三味線クラブもあって利用者の方は、大変満足されていたと思います。

今後もしも継続していただき、利用者の方々を笑わせてあげてください。



お年寄りに囲まれ記念撮影—勝山市 さくら荘
(中央右：内海英華さん 左：桂文喬さん)

生の寄席
大変楽しかった

福井県若狭みどりの村
入所者 上坂 嘉信さん

今回の福祉寄席は、テレビやラジオとは違い、生の声を聞けて、楽しかった。落語の内容がよくわかり、特に「親子酒」の話がおもしろかった。このようなふれあいの催しものを今後も続けてくれるとうれしいです。



熱演する桂文喬さん—敦賀市・湊山荘

施設と地域の方との
ふれあいの場にも

九頭竜ワークショップ
福祉介護部長
前原 甚四郎さん

私達の施設は、笑うことの少ない施設で今回のような笑いが起る催しものは、ふれあい活動の大きな要素だと思っています。

当施設では、「地域とともに」をキャッチフレーズに運営していますがなかなか思うようにまわりません。この様な催し物には地域の方々も招くことができますので、互のふれあい活動や生き甲斐づくりの輪を広めるよい機会になります。

プロの演技に感心
今後も計画して

福井市ふれ愛園
岡島 重春さん

身近で聞く三味線の音色と節まわしの見事な美声にさすがはプロだと感心しました。熱演だった落語も楽しい笑いのひとときで大変おもしろかった。

外出する機会が少ない私共老人にとつて今回のような催し物に感謝申し上げます。今後も継続してほしいと思います。

楽しい寄席 生き
甲斐づくりに貢献

勝山市 さくら荘
荘長 橋 麗子さん

間近で本物の落語や三味線漫談をきかせていたたくのは、お年寄りも職員も初めてで、みんな大喜びでした。また、なかなか地方では見ることができない芸能を見ることで大変楽しいひとときでした。当荘では、これからもお年寄りに生き甲斐のある楽しい生活を送っていただけるよう努力して参りますが、今回と同様の催し物を今後も継続して企画、実施してほしいと思います。

恐電エキスポふくい・ミュージカル 財団共催
「がんばれ!ダスト・パスターズ」・「VIVACE」

7/27-31



親子連れを前に繰り広げられた「がんばれ!ダスト・パスターズ」公演

「VIVACE」ダンスと歌のライブショー

財団では恐電エキスポふくい2000に協賛して7月27日から31日までの5日間同会場のメインステージで「がんばれ!ダスト・パスターズ」とVIVACE (ヴィヴァーチェ) の2つの舞台公演に共催し、エキスポを盛り上げました。

出演には劇団「ミクルミュージカルカンパニー (大阪市)」のメンバー12名が出場し環境保護をテーマにした親子向けのミュージカルを繰り広げました。また、ヴィヴァーチェは若者7人のユニットがアップテンポな曲と合わせてダンスと歌でくり広げるライブショーを披露し、会場を訪れた親子連れは華やかな夢舞台に暑さをふきとばして楽しんでいました。

夏の子ども音楽会
親子で楽しむ「打楽器博物館」

8/24

財団共催 ハーモニーホールふくい



参加した子供たちも舞台上に大合奏

夏の子ども音楽会「親子で楽しむ「打楽器博物館」が県文化振興事業団主催、財団協賛のもと8月24日、ハーモニーホールふくい(県立音楽堂)で開催されました。

この催しものは、世界的な打楽器演奏家の菅原淳さんを中心に集ったグループ「パーク・ツシヨン・ミュージアム」が出演。第1部では、ティンパニ、マリリンバ、ドラ、シンバルなど様々なジャンルの打楽器や音楽が紹介され、「G線上のアリア」やアニメメドレーなど多彩な音色が重なり合って生まれるハーモニーを披露。また、参加した子供達も舞台上に上ってもらい楽器をならしたり、手をたたくなど大合奏を展開。第2部では、マリリンバ奏者神谷百子さんが福井製作のゆかりのマリリンバを駆使した独奏をはじめ、「ウエスト・サイド物語」などをマリリンバを中心に打楽器の迫力ある演奏を行い、集った親子700人から大きな拍手が送られていました。



声楽と演奏を披露する阿川泰子さんとバンド

げんでんふれあいコンサート
前田憲男とウインドブレイカース
ゲストに阿川泰子さん

11/3

ハーモニーホールふくい

財団では、11月3日、福井市のハーモニーホールふくい大ホールに「前田憲男とウインドブレイカース」、ゲストに阿川泰子さんを招き、ジャズ・ファンタジアと銘打ち「げんでんふれあいコンサート」(日本原産協賛)を開催しました。ピアニスト前田さんのユニークな司会で、「フィッツ・オールライト・ウィズ・ミー」に始まり、映画音楽「マンハッタン」など15曲を演奏。

阿川さんは、「フルツ」「眠りの森の美女」を前田さんのピアノとデュエットするなど8曲を歌い上げ、会場を訪れた約9百人のファンは、ジャズ・スタンプブレイヤー揃いのバンド演奏と彼女の美しい歌声に魅了されていました。



観客を宙玄の世界に引き込んだ新能

全国一流の能楽師を招き
8年ぶり「花籠新能」

8/6

今立町

「花籠新能」(同実行委員会主催)が8月6日夜、今立町粟田部の花籠公園で開催されました。かがり火に浮かび上ったステージで一流の能や狂言が厳かに繰り広げられ、県内外の愛好者約1200人が宙玄の世界を堪能しました。

粟田部は謡曲「花籠」発祥の地で、今回の新能は地域の文化遺産を継承しようと全国一流の能楽師を招き8年ぶり4回目の開催となったもの。午後5時半、笛や太鼓に合わせ舞獅子「高砂」で幕開け、続いて三保の松原の伝説を表現した「羽衣」や狂言「蚊相撲」が上演され、最後には、熊坂長節を取り上げた「熊坂」を能楽師飯塚俊彦さん(石川)と辰己孝門さん(大阪)が薙刀を使い豪快な舞姿をみせ、観客は普段見ることができない一流能楽師たちの舞台に陶酔していました。

かつやまアスベン音楽祭
市民の歌声 恐竜も魅了

勝山市

8/24
~26

かつやまアスベン音楽祭2000（同市音楽交流協会主催）が8月24日から26日かけ、同市文化会館などで開かれました。初日は、世界的に活躍されている米国の音楽家、ピアノのウー・ハンさん、チェロのデビット・フィンケルさんから高校生や音楽愛好者が奏法の公開指導を受ける催しが企画され、25日夜には同氏による演奏会が行われました。ペーターベンの「チェロとピアノのためのソナタ・ト短調」など4曲が披露され、訪れた大勢の市民は、2人の奏でる一流の調べに酔いしれていました。26日には「恐竜エキスポ」会場のメインステージで市民コンサートを開催。市民らで結成している「祝祭合唱団」と「祝祭吹奏楽団」が出演。前半は小、中、高校生、一般の各クラスが順にコーラスを披露。後半は吹奏楽団が映画テーマ曲などを演奏。最後に聴衆も一緒に合唱し、同音楽祭のフィナーレを飾っていました。

「かつやまアスベン音楽祭2000」のフィナーレを飾った市民コンサート。恐竜エキスポ・メインステージ



演奏を披露したピアノのハンさん（右）チェロのフィンケルさん＝勝山市民会館



302点の作品が展示された書道部門

県高校芸術祭（美術・書道・写真・新聞展）
部活動の成果790点披露

県立美術館

9/27
~10/1

第11回県高校総合文化祭の芸術祭が9月27日から10月1日まで、県立美術館で開かれました。県内各校の生徒約800人による作品が美術、書道、写真、新聞の4部門に分けて展示され、いづれの作品も若い感性があふれた力作が目立ちました。

初日には、大勢の高校生が訪れ、仲間達の作品に見入っていました。

美術の部では、358点が出展。抽象画や具象画のほか紙粘土や陶芸などの立体的な造型作品や彫刻がずらりと並べられました。

書道の部では、302点の作品が展示され行書や行草書で漢詩を書いた反切作品のほか、初めて参加した福北養護学校の4人が「友」の字を一面ずつ分拍して書いた斬新な試みが目を引いていました。

写真の部では、112点の作品が展示され、同級生を撮影した白黒のスナップなどが目立っていました。新聞の部コーナーでは、パソコンを使った本格的な速報新聞や手作りのぬくもりあふれる手書きの新聞もあり、また、題材では、少年犯罪に関する意識調査の結果をグラフ化した記事などビジュアルな紙面づくりが目立っていました。

大野市文協創立50周年記念
県市町村文協選抜美術展

大野市

10/7~9

第21回県・市町村文協選抜美術展が10月7日から9日まで大野市・多田記念有終会館で開かれました。今回は、大野市文化協会創立50周年を記念し、同美術展を盛り上げていました。

会場には、県内28市町村文協から選抜された絵画・書道・写真・工芸の4部門の優秀作品464点が参加、展示されました。

各部門とも郷土の特色を豊かな感性で表現した力作が目立ち、作品は市町村文協別に並べられ、訪れた約1200人の人達の目を惹きつけていました。



多彩な工芸作品が披露された県市町村文協選抜美術展

「参加して文化」を目指し
つるが市民ふれあい文化まつり

敦賀市

10/13~15

敦賀市文化協会では、例年秋に市内で分散開催してきた文化祭を新しい装いのもとに「つるが市民ふれあい文化まつり」とし、10月11日の前夜祭を皮切りに、14・15日音楽、舞踊部門などの芸術祭を市民文化センターで、13日から15日まで、美術などの展示部門をきらめきみなと館で開催しました。



新しい装いで発足した市民ふれあい文化まつりの展示広場

展示場には、美術、文学、興趣など5部門に分け、書道、絵画、俳句、写真、盆栽など約450点が展示、披露されました。各部門とも地域の特徴や日常生活に身近な生活文化が滲んだ作品が目立っていました。

第3回 ふるさと大賞 2000 写真コンテスト

作品募集

- ふるさと大賞** ①点 賞状・トロフィ・賞金30万円
*但し、高校生の場合は、賞金相当額の記念品とする。
- ふるさと賞** ③点 賞状・トロフィ・賞金
学生:10万円1点/一般:20万円1点/女性:20万円1点
- 優秀賞** ⑥点 賞状・トロフィ・賞金
学生:5万円2点/一般:10万円2点/女性:10万円2点
- 入選** ③5点 記念品
学生:5点/一般:20点/女性:10点
- 佳作** ③5点 記念品
学生:5点/一般:20点/女性:10点

締め切り **12月15日(金)** 当日消印有効

主催：(財)げんでんふれあい福井財団
 後援：福井県/福井県教育委員会/敦賀市/敦賀市教育委員会
 (社)福井県文化協議会/福井県高等学校文化連盟/福井新聞社
 福井放送/福井テレビ
 協賛：福井県カメラ商組合/富士写真フィルム(株)/(株)福井フジカラー



撮影/八木隆氏

- 部門** 学生部門(高校生以上)・一般部門・一般女性部門の3部門
- 資格** 1) 福井県に在住又は学校・勤務先が福井県内であること
 2) 写真の専門家(プロカメラマン)ではないこと
- 作品の規格** カラー・モノクロで四つ切り又は四つ切りワイドの単写真(学生は六つ切り可)
- 応募先** 1) 〒914-0051 福井県敦賀市本町2-9-16 げんでんふれあい福井財団
 2) 福井県カメラ商組合加盟店及び県内フジカラー取扱店
- 審査員** 審査委員長：八木隆氏(写真家)ほか
- 結果発表** 平成13年1月下旬
- 表彰** 平成13年2月7日(ふるさとの日)

● 財団イベント INFORMATION ●

第3回写真コンテスト入賞作品展示会	(敦賀会場)	平成13年 1/30(火)~2/11(日)	げんでんふれあい ギャラリー(本町2-9-16)
	(福井会場)	2/16(金)~21(水)	ショッピングセンター「ベル」
げんでんふれあいコンサート	ジャズ&ゴスペルコンサート	平成13年 2/25(日)	敦賀市民文化センター
日英小学生絵画交流展	敦賀市6小学校とイギリス セラフィールド地区 2小学校児童絵画の交流展	平成13年 1/16(火)~1/28(日)	げんでんふれあいギャラリー

財団ホームページ アドレス <http://www.Genden.or.jp>